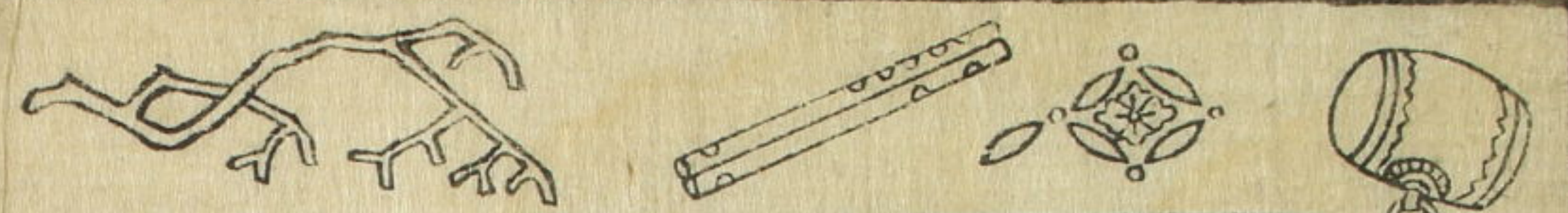




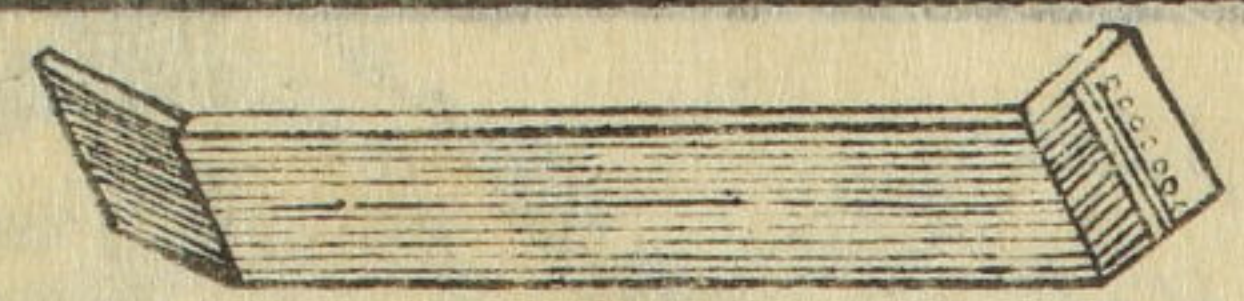
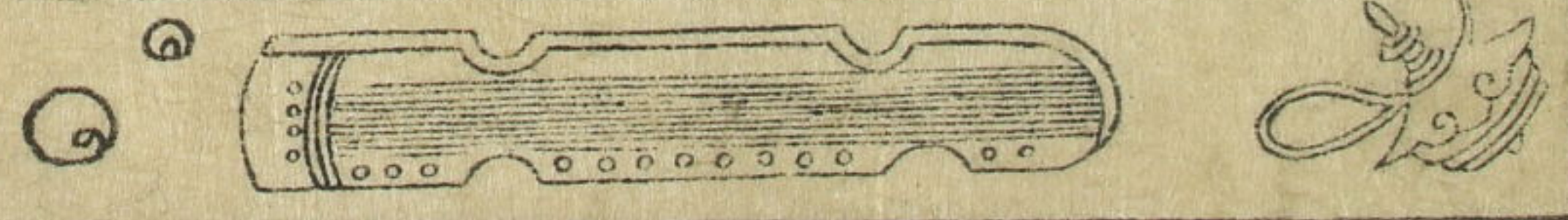
子 5
4431



橋豊



世の中何よほしても礼も孝の人のありと
 女人のと一如君との忠見親戚の睦友乃
 文も何もう孝より婦も人々聖孔子弟世に
 教施しむひも孝れ基ふ事小又小
 又我の何ひも孝経より志は春秋を
 のむひをみもば孝経をやけり孔子は行徳
 なるものをや孔子の弟子伯魚孔子に先づらて
 侍らむひも孔子思より相承し義長子病身
 小て次子世を嗣ぎ之を長子とやぐす



なを給ひ嬉し事如く海の世も諸侯小
 形も勢も今日まで百餘代詠業し海度あり
 玉下も影も敗子れもて誰もより身を保
 行ひを給ひ一人の影も有る記事なりかし
 彼子思の幼も一不教多れ沙門人の中も曾子
 をも師とれ一礼を玉引も弟子は法孝行
 多く教もひもバをたのむひりも
 子思の弟也子孟子又よく大道を辨し
 道統の傳りもよともやい





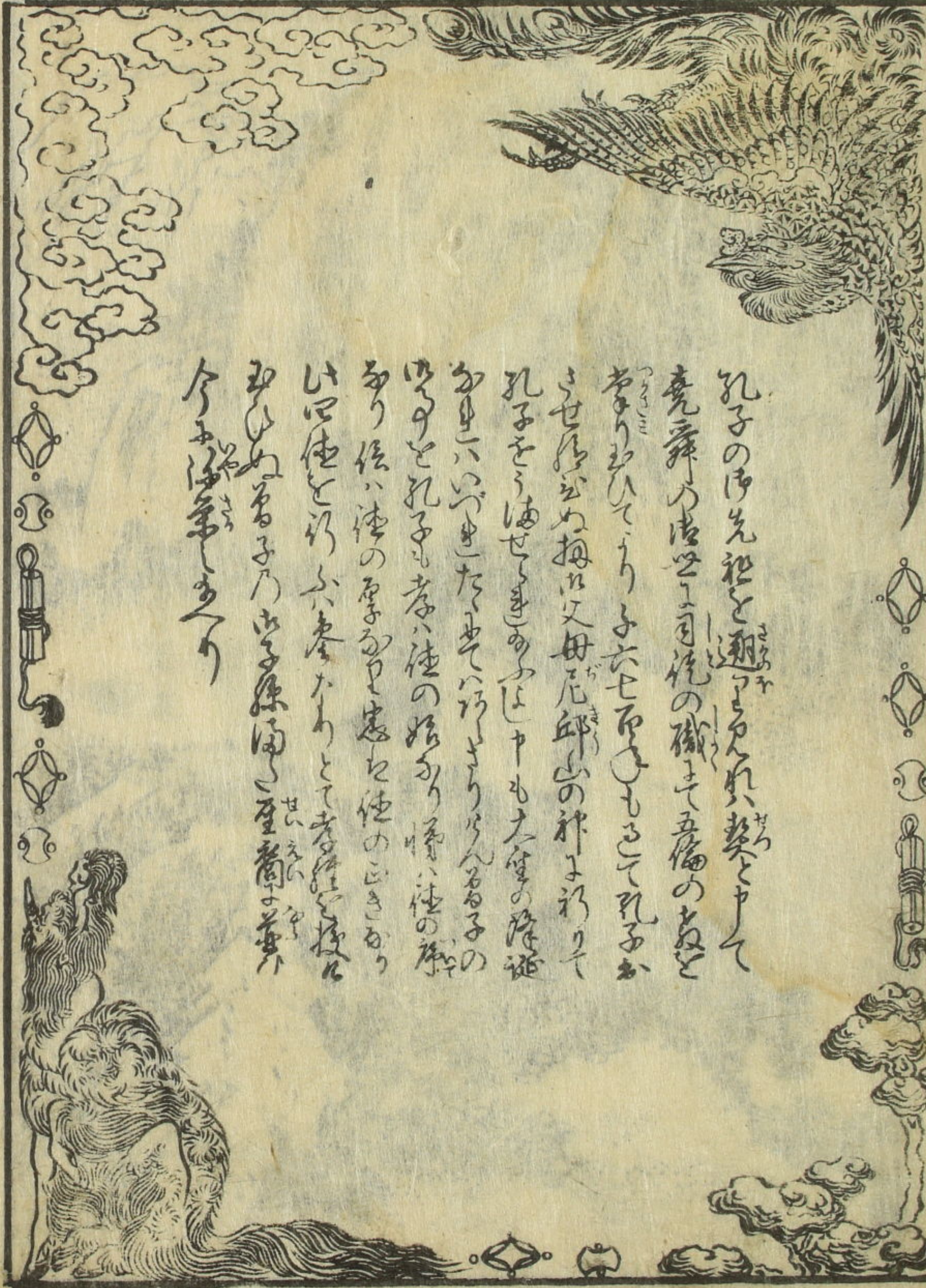


仲尼間居曾子侍坐

仲尼と孔子の字同居ハ
本として物有の行あり論
治より之遊居申如也天也
もこの時のも遊居の同居
も申く其のそのの解する
どのく夫をそののうはきま
たり曾子の孔子の如きの侍坐
もこの時のも遊居の同居

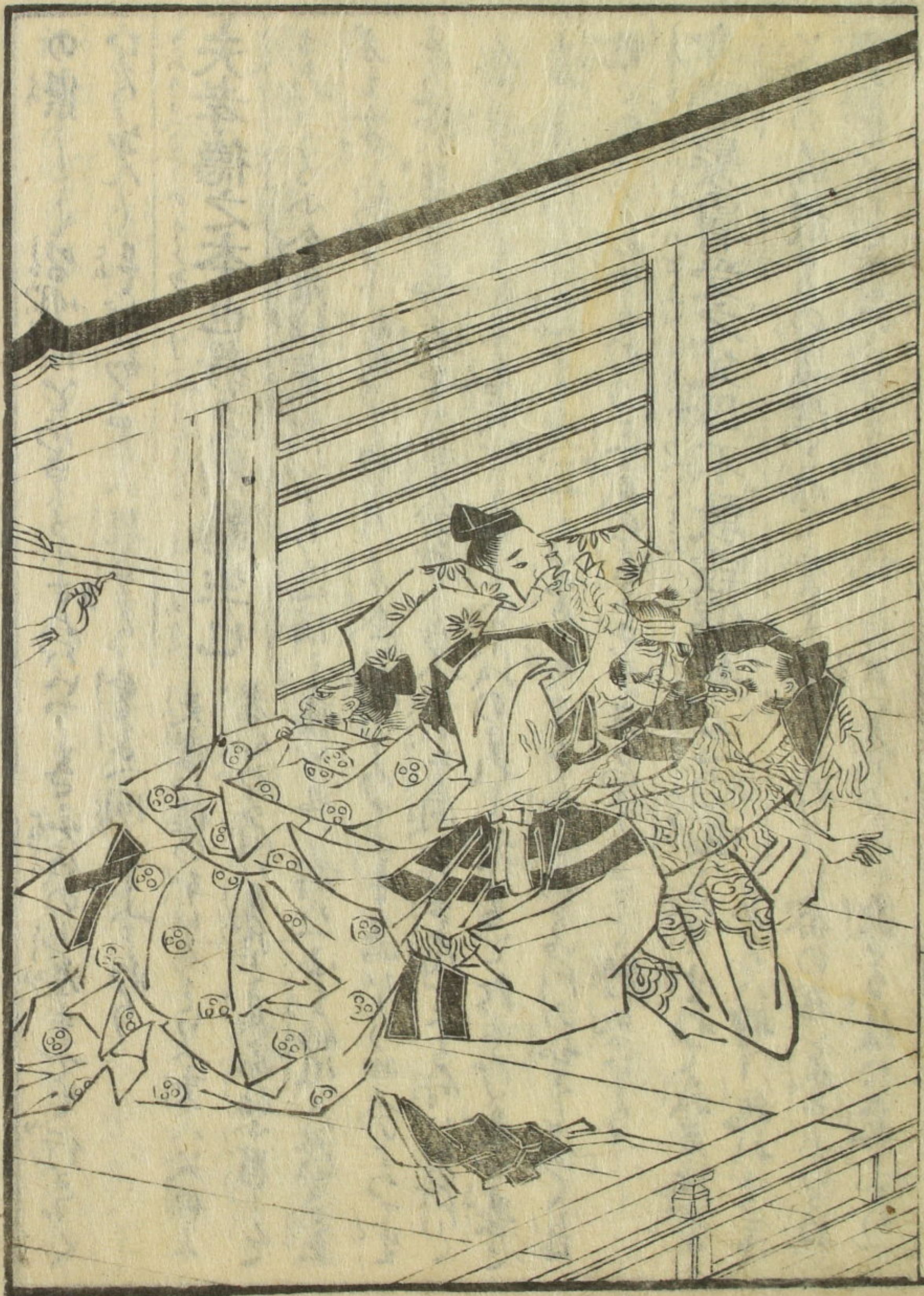
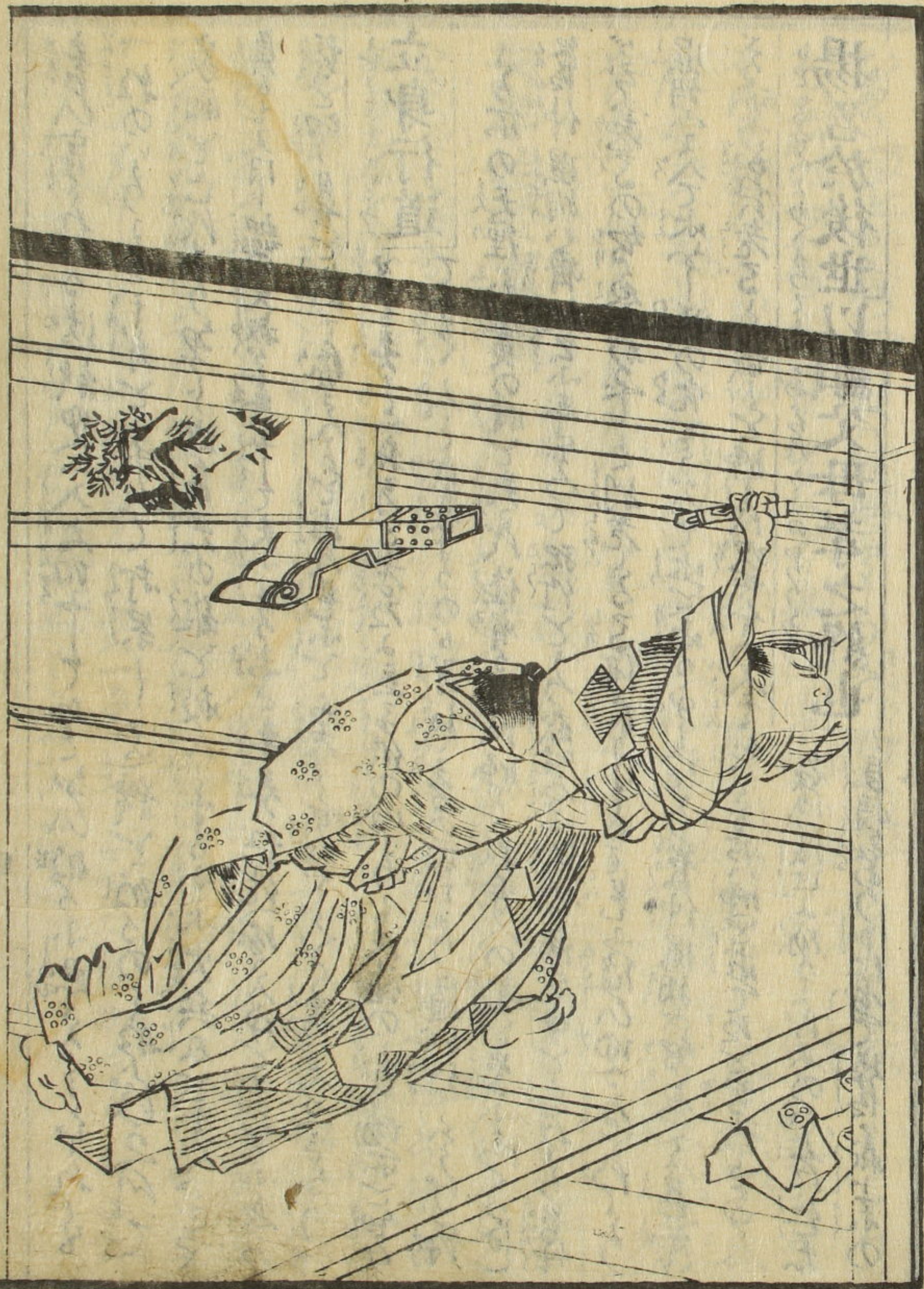
子曰參

参は曾子の名也父と師の
子也と名ふ本わくのじは
孔子も参とて呼ばる



孔子の先徳と遊居をんれ其とて
堯舜の徳と遊居の徳とて其の徳と
孝りていり子六七也(一)もして孔子
とせ居る母也父母兄弟の徳より
孔子をいはせ居る也(二)中大の徳
也(三)いふはたてはりたりる子の
ありと孔子も孝の徳の徳あり徳の徳
あり徳の徳の徳あり徳の徳あり
徳の徳あり徳の徳あり徳の徳あり
徳の徳あり徳の徳あり徳の徳あり
徳の徳あり徳の徳あり徳の徳あり





孝の育れたる遠祖史一入太和中と母を人殺す小忍なる事なれども
 一社のいりゝをいふとまされて打果一送禮と破るの事成之由て
 家國と亡んるりかゝる忠臣の難と破んする小水火兵刃とよくこころ
 貞をも又日下親の文叔がまの事夫ふる事幸を共徳をえんとすまらぬ事
 發と切り身と截て家んとを斬んはすと孝とせんやよく考ふる事あり

立身行道

孝の育れたる遠祖史一入太和中と母を人殺す小忍なる事なれども
 一社のいりゝをいふとまされて打果一送禮と破るの事成之由て
 家國と亡んるりかゝる忠臣の難と破んする小水火兵刃とよくこころ
 貞をも又日下親の文叔がまの事夫ふる事幸を共徳をえんとすまらぬ事
 發と切り身と截て家んとを斬んはすと孝とせんやよく考ふる事あり

揚名於後世以顯父母孝之終也

後世は揚るる人の一人に
 良時ありたをて忠臣義士の

孝の育れたる遠祖史一入太和中と母を人殺す小忍なる事なれども
 一社のいりゝをいふとまされて打果一送禮と破るの事成之由て
 家國と亡んるりかゝる忠臣の難と破んする小水火兵刃とよくこころ
 貞をも又日下親の文叔がまの事夫ふる事幸を共徳をえんとすまらぬ事
 發と切り身と截て家んとを斬んはすと孝とせんやよく考ふる事あり

夫孝始於事親

夫孝の始は事親なり
 孝の育れたる遠祖史一入太和中と母を人殺す小忍なる事なれども
 一社のいりゝをいふとまされて打果一送禮と破るの事成之由て
 家國と亡んるりかゝる忠臣の難と破んする小水火兵刃とよくこころ
 貞をも又日下親の文叔がまの事夫ふる事幸を共徳をえんとすまらぬ事
 發と切り身と截て家んとを斬んはすと孝とせんやよく考ふる事あり

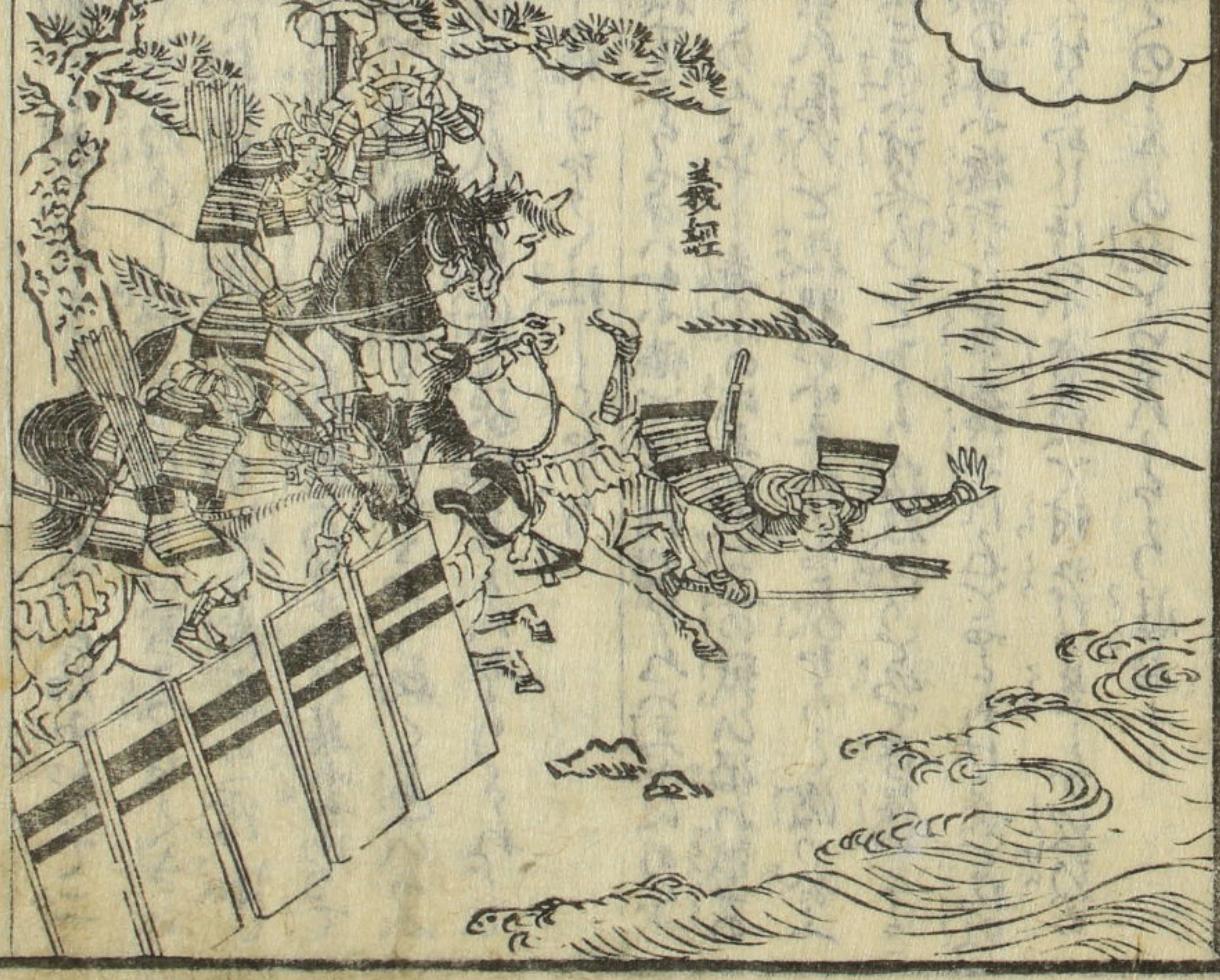
中於事君

不の天位のを殺とら夫て君ふ事
なり君臣の二綱のてててて
少のほかへししては
荒蕪の然王向成事て其王を
と成し今世の取守と報こと
功成名もけて君臣の天のなやら
中なる中なり

終於立身

終て立身
ふのい又の意おま

の孝君に仕へて忠を以て
てめへの切のし
八の合戦小徳守教経九命
別居と目けて中中なり
不依友徳修を面ふ立て
後居りて命よ替りて君君と報
し謀小忠臣の名の
然して打死に足終身君ふは
ねたの軍小忠臣を
まこと命小替りて君と
終るのわがらやりのわがら
とらた





項羽

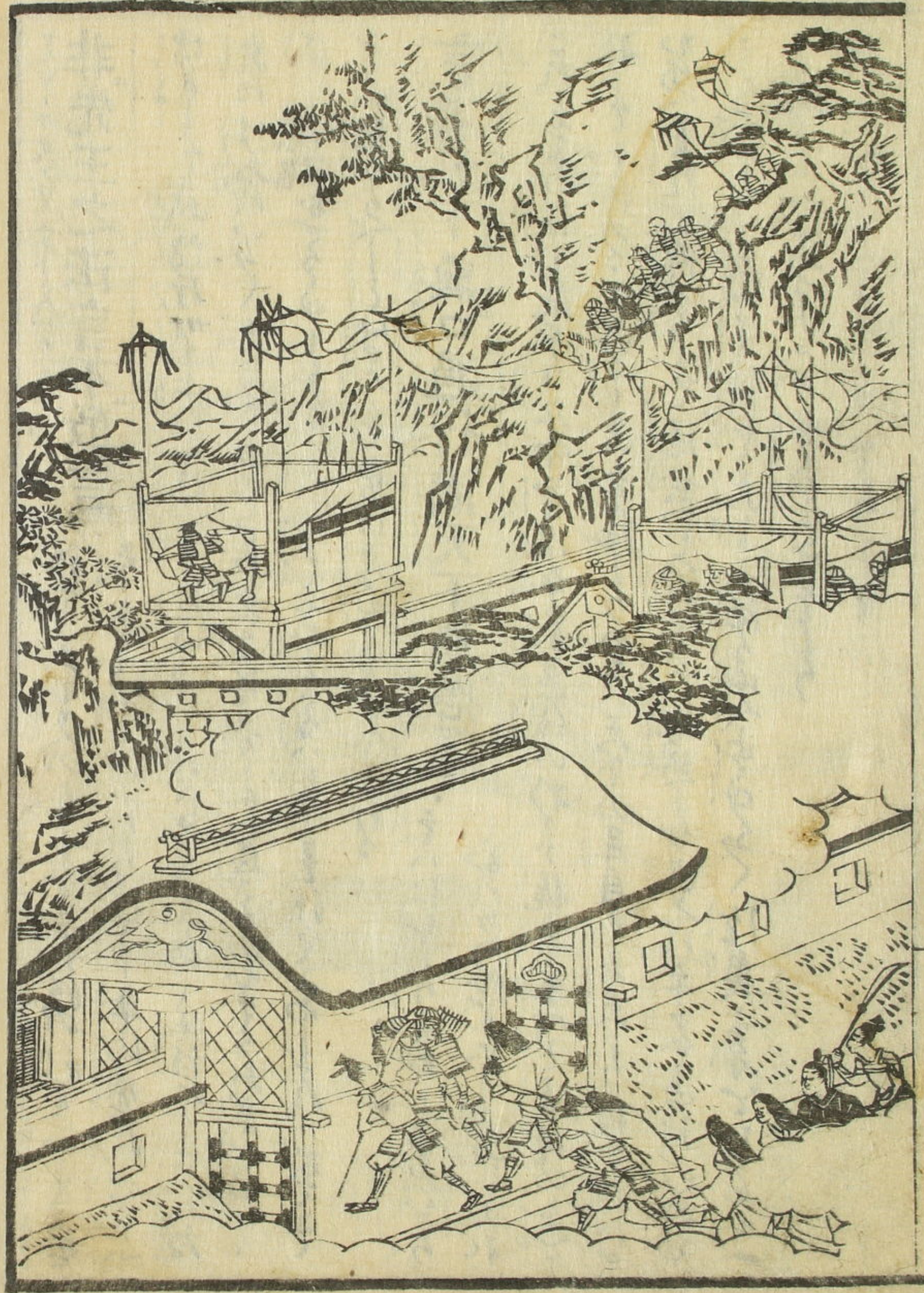
樊噲

非先王之法言不敢言

先王の法言をいふは、
 増して我坊行止し小法の重登はゆとほく、
 又たけい入りて怒るも、
 或は是をせざるものも、
 法の教をうけ、

言滿天下無口過行滿天下無怨惡

言はば、
 此の法言をいふは、
 形して、
 かく、
 かく、
 かく、
 かく、
 かく、
 かく、

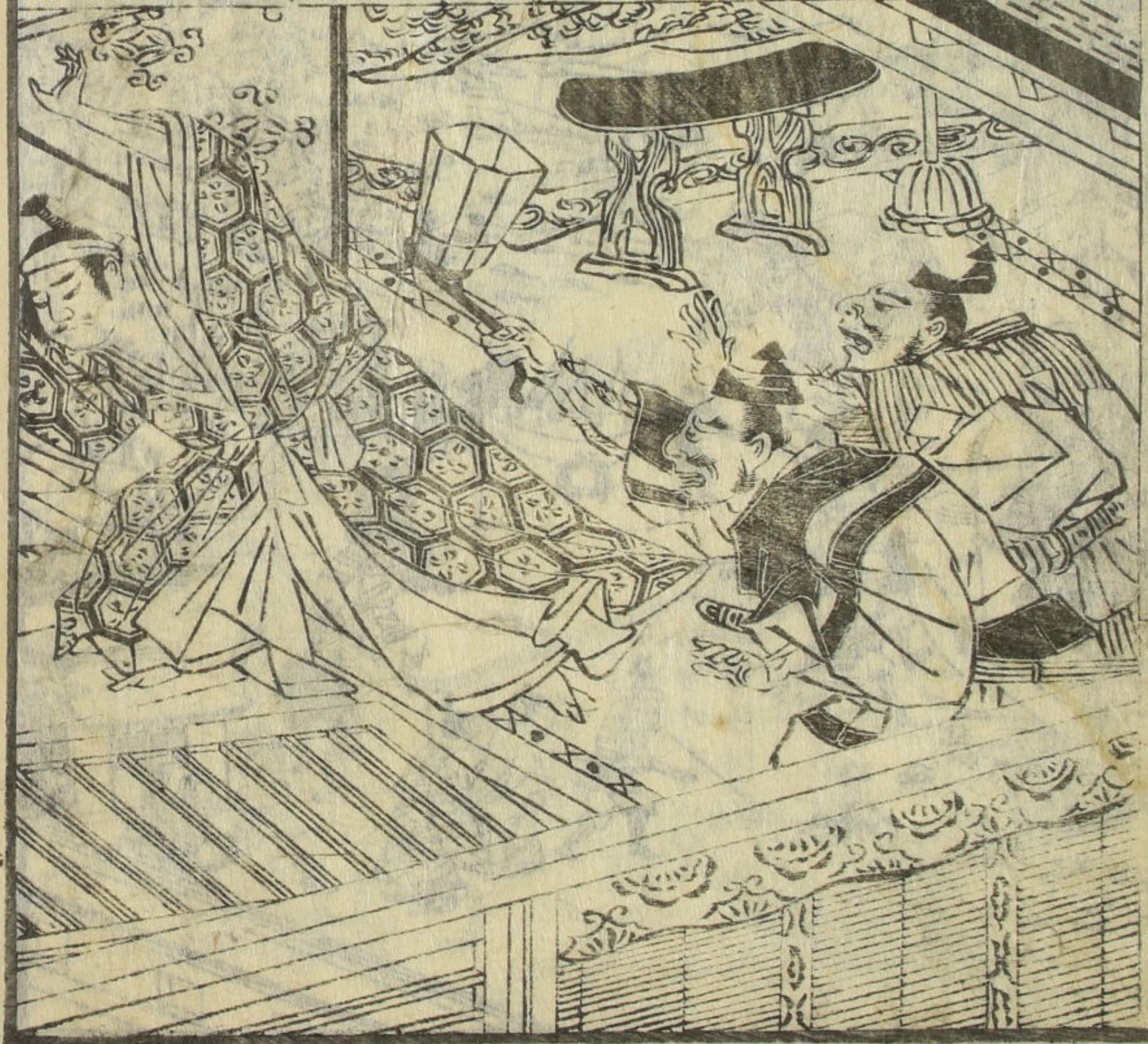


三者備矣然後能守

其宗廟

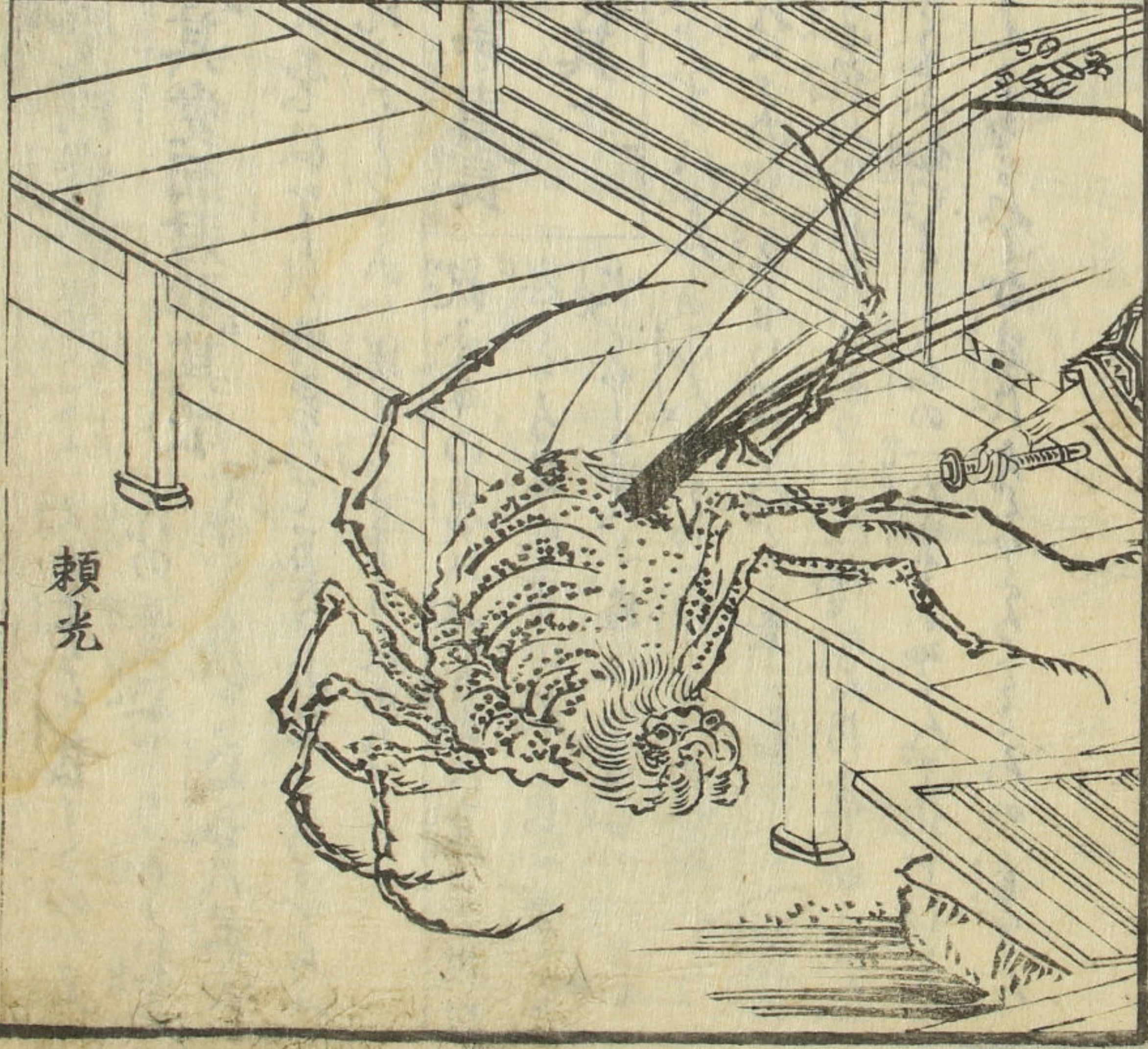
三の老ゆらゝい後

三行の三つなりはたわや府の
長く専家と傳ら又母之祖の家
府とちりて衆れもまゝふ
池は北東春付に身使り
のこまゝなる能自れとてや
民とててゆ仗とすんばあづ
かゝる之の字も亦も産るや
わゝ不建長らさうて表
のかゝるゝせりといふ者ゆ
てのらぬともまゝ府とす
とらり

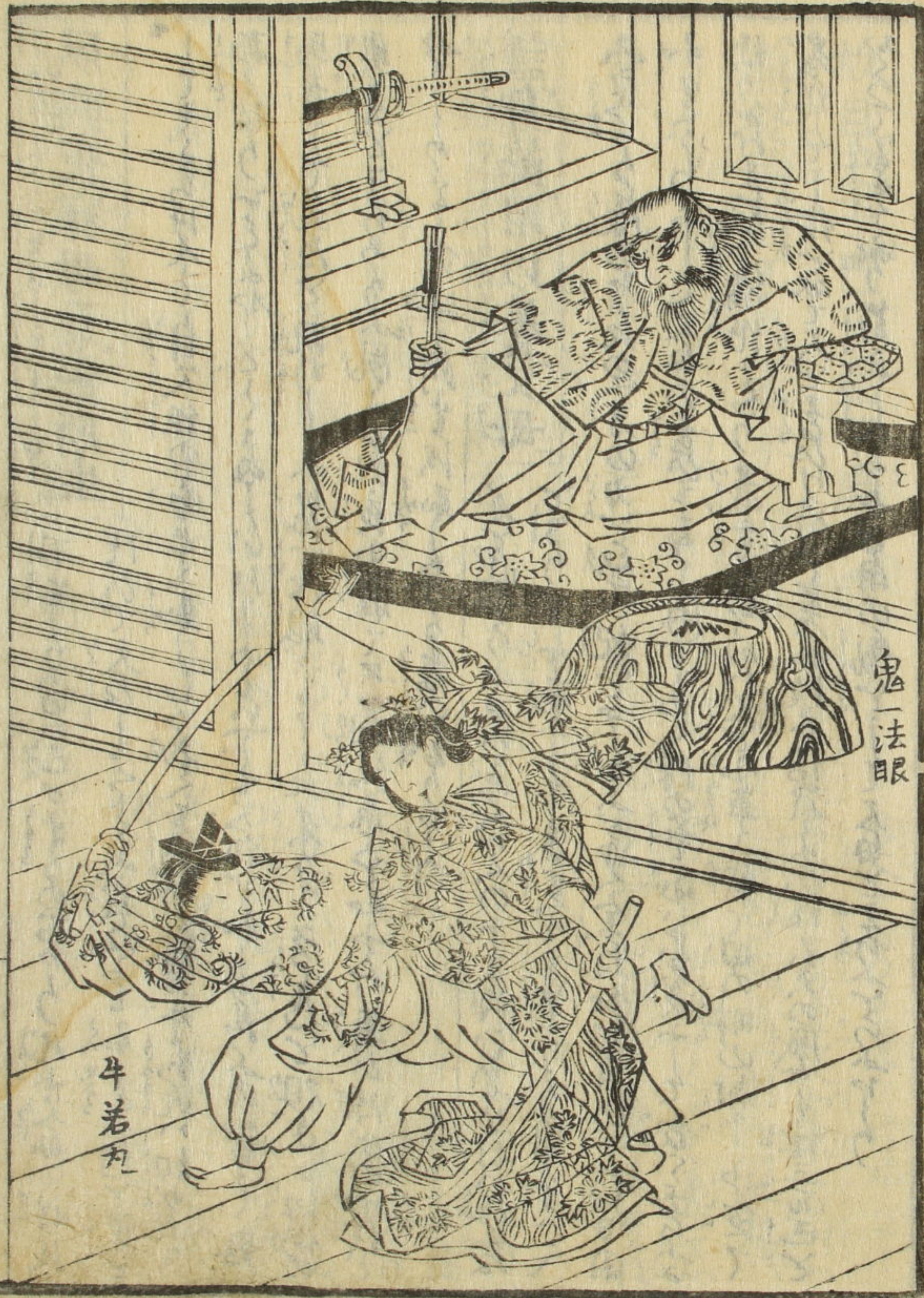


夙夜匪懈以事一人

一人小車といふ一人の忠めて
公の外は体念ぬく寝ても疲
てしと平んぶるゝとまゝなり
ねまの五輪のわゝ者まゝん
たすいけるを四天この人くま
夜枕えとまゝを花くほへよ
物のゝゝゝゝと入なりて居
とまゝん是を一人小車て夙
夜よまゝたはな物と居居
なりたるをまゝとやせん
ちんやいん



頼光



鬼一法眼

牛若丸

資於事父以事母而愛同資於事父以
 事君而敬同故母取其愛而君取其敬

父事母の愛を以て母を敬ぶの如く
 母を敬ぶの如く君を敬ぶの如く

故以孝事君則忠以弟事長
 則順忠順不失以事其上

忠孝の孝は以て忠に事するに
 弟の弟は以て長に事するに

則順忠順不失以事其上

忠孝の孝は以て忠に事するに
 弟の弟は以て長に事するに

孝の孝は以て忠に事するに
 弟の弟は以て長に事するに
 忠の忠は以て孝に事するに
 弟の弟は以て長に事するに
 忠の忠は以て孝に事するに
 弟の弟は以て長に事するに

夙興夜寐母黍爾所生

正生るるの己がするの事なり代ふ父母の性天
はので文をもちて又或はたせむるは何と云ふと
してそとらけんと自天の性も取しむる也然の三男本れ丸ハ切なり
取らりてそよかこころいなりと云ふ也此れ取らるるの如く
馬寄して文を執りて又鬼一は眼をさして来りて男房と相子ハ海御の
奥系と云りあり夙興夜寐母黍爾所生と云ふは再ハ海御の奥代と
取らるるの如く取らるる者の如かり

謹身節用以養父母

父母を養ふるの如く人々の下は御むるなり海御
と云り親を養ふる事と云ふ事也養ふるの事なり
又定るる海御の如く父母の力と云ふて取てやめり金銀をとりて日用
不足ならしめて又母の養ふ事と云ふ事也養ふるの事なり
使らばけりて備他より養ふ事なり此れ又事と云ふ事也
養ふ事と云ふ事也天と云ふ事也養ふるの事なり
又定るる海御の如く父母の力と云ふて取てやめり金銀をとりて日用
不足ならしめて又母の養ふ事と云ふ事也養ふるの事なり
使らばけりて備他より養ふ事なり此れ又事と云ふ事也
養ふ事と云ふ事也天と云ふ事也養ふるの事なり

故自天子已下至于庶人孝

無終始而不及者未之有也

天子より庶人まで孝の終始なく
天子の刑勿ち及ぶ事なり此れ又事と云ふ事也
孝の如く終始なく及ぶ事なり此れ又事と云ふ事也
天子の刑勿ち及ぶ事なり此れ又事と云ふ事也
孝の如く終始なく及ぶ事なり此れ又事と云ふ事也

天地之經而民是則之

天地の經を仰ぐ事なり此れ又事と云ふ事也
自にして止る事なり此れ又事と云ふ事也
事なり此れ又事と云ふ事也
目と云ふ事なり此れ又事と云ふ事也
指威と云ふ事なり此れ又事と云ふ事也
動と云ふ事なり此れ又事と云ふ事也



義貞



高家



かくては経儀の心その承よ勢方あててわんをい備するとは要生ならん天竺川と云ふ
 時ありて兵水よあわれけるは引上助て向ふの者いんホ二天げうりぞおげよる 彼志起
 とめよありまの先陣我らんと名あげれどもなる心のけあけりことかんとてこと
 外宮よりしとあり是を教儀十てわてふたわとてたも抱とれよのつりしとらり

導之以禮樂而民和睦

夫人はこれのつとめてはこれにればはつて
 かしきれがごとく恥れぬるごをりとするめはよ
 然る所戒るは経儀の風俗をて刑罰と再
 すとてあつたはにん六動物やと動去のとの
 かしき言も動さよあつた動めは神社とん是
 と存人の小神と奉りて神心の機とわい
 ことめ徳系信の事と徳よ入るまあつた
 徳の中へ入るまあつたのふかあつたは是
 徳の徳とて民はまあつたは睦するなり

天子の位と
儲けたる人位をいする者
さうさういふくたへハ小公の
位もものさばりてさき
まきの事さなり

故得萬國之惟心以事

其先王

天子の位と儲けたる人位をいする者さうさういふくたへハ小公の位もものさばりてさきまきの事さなり
天子の位と儲けたる人位をいする者さうさういふくたへハ小公の位もものさばりてさきまきの事さなり



天子の位と儲けたる人位をいする者さうさういふくたへハ小公の位もものさばりてさきまきの事さなり

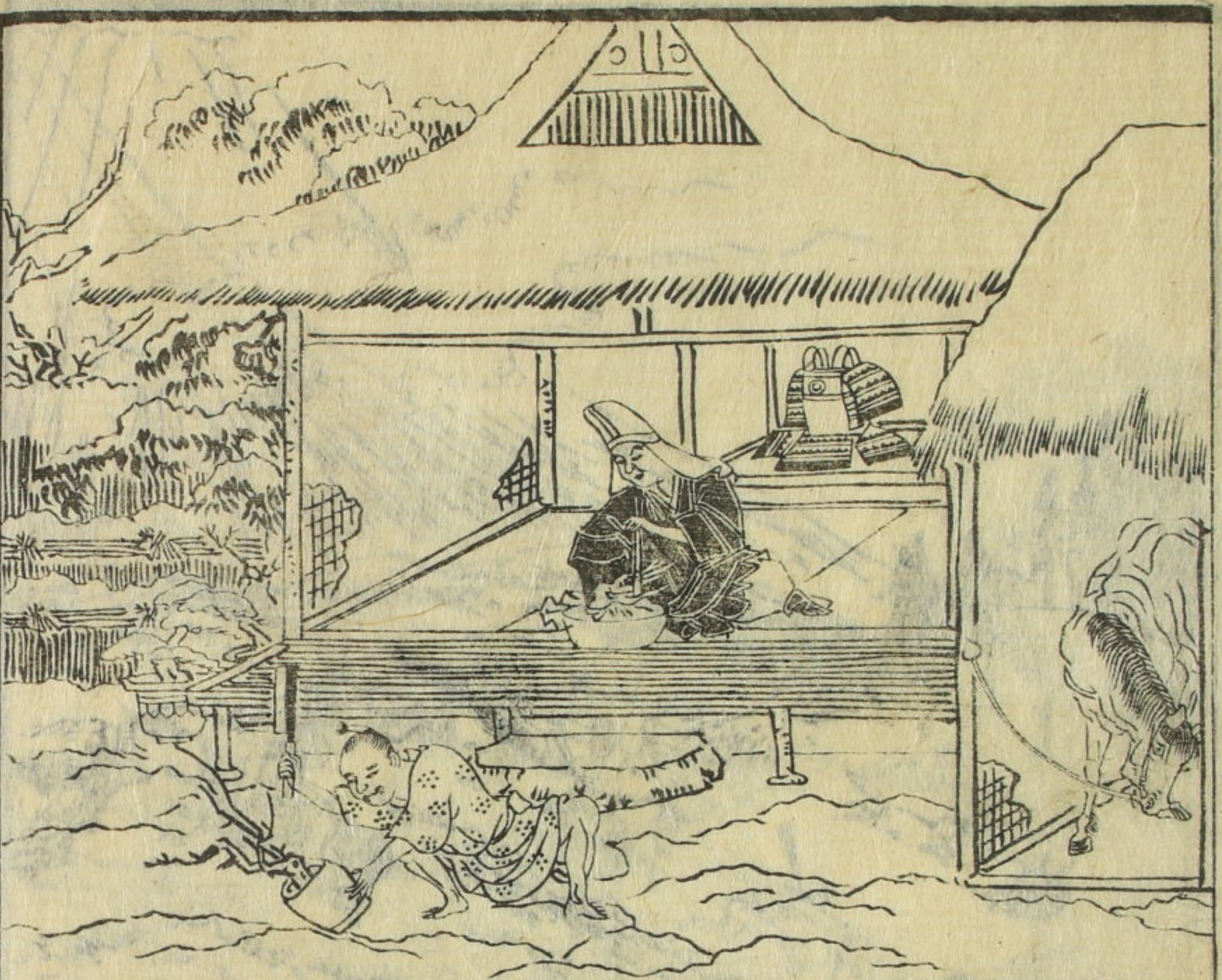
治國者不敢侮於鰥寡而况於士民乎

天子の位と儲けたる人位をいする者さうさういふくたへハ小公の位もものさばりてさきまきの事さなり

故得百姓之惟心以事其先君

天子の位と儲けたる人位をいする者さうさういふくたへハ小公の位もものさばりてさきまきの事さなり





詩云有覺德行四國順之

孝の明賞よりよてあてまつりよ
 さうのさうなりたる人の一
 躬のそれとも氣血のちうがくふ
 ちの徳のさうさうのさうさうの
 ちの徳のさうさうの徳を
 徳のさうさうの徳のさうさうの
 敢問聖人之徳其無以加
 於孝乎 敢問いさふさうの
 問の徳のさうさうの徳のさうさうの
 聖人の徳のさうさうの徳のさうさうの
 けれすの問のさうさうの

天地之性人為貴

性といふは天地萬物の二氣合して生ずること性といふ
 けり性といふは天地萬物の二氣合して生ずること性といふ
 性といふは天地萬物の二氣合して生ずること性といふ
 性といふは天地萬物の二氣合して生ずること性といふ

人之行莫大於孝

孝といふは人の徳の最も尊い徳也孝といふは人の徳の最も尊い徳也
 孝といふは人の徳の最も尊い徳也孝といふは人の徳の最も尊い徳也
 孝といふは人の徳の最も尊い徳也孝といふは人の徳の最も尊い徳也
 孝といふは人の徳の最も尊い徳也孝といふは人の徳の最も尊い徳也

多岐にわたる人の子として世にたりて何れもせんれどかくせん
かみ事の人よの冠もあはれはるる中野の事なりしも必しもあはれ
に唯也又の也身命長久との事なりあはれ事なりけりも親の事なり
けりもあはれ事なりけりも親の事なり

昔者周公郊祀后稷以配天宗祀文王於明堂以配上帝

天宗

天とあはれりし時周之礼と化してそのあはれ用の祖宗后稷とありしを天に配て
祭るなり郊祀なる野原を祀るなり又の事なりあはれ事なりけりも親の事なり
けりもあはれ事なりけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり
けりもあはれ事なりけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり

是以四海之内各以其職来助祭夫聖人之德又何以加於

孝乎

四海之内東南西北の海濱にわたるまでの諸侯も来助して祭るなり
と首尾をわたりてあはれ事なりけりも親の事なりけりも親の事なり

あはれりし職をわたりて祭るなりけりも親の事なりけりも親の事なり
けりもあはれ事なりけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり

故親生之膝下以養父母日嚴

親の大典の事なりけりも親の事なり

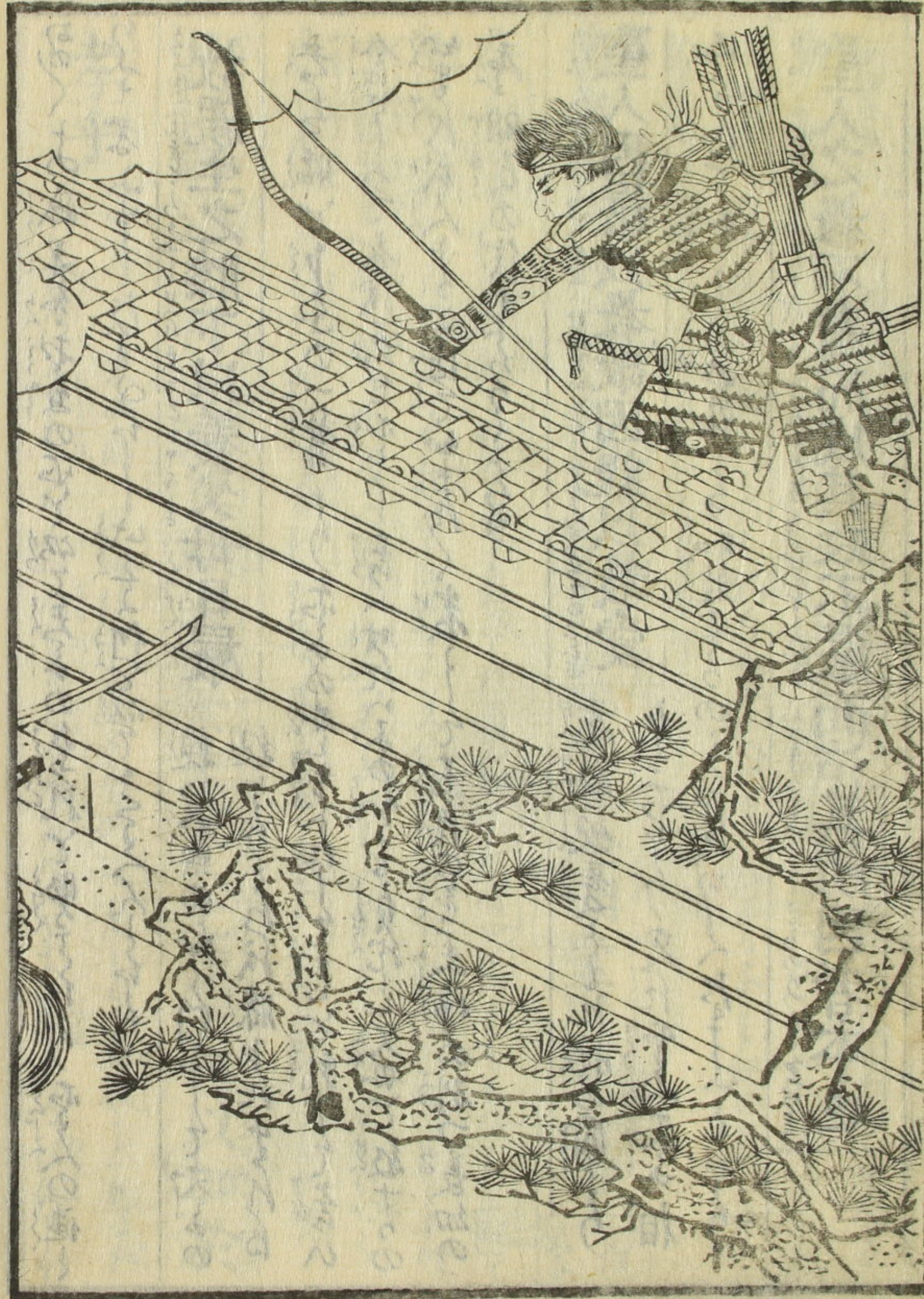
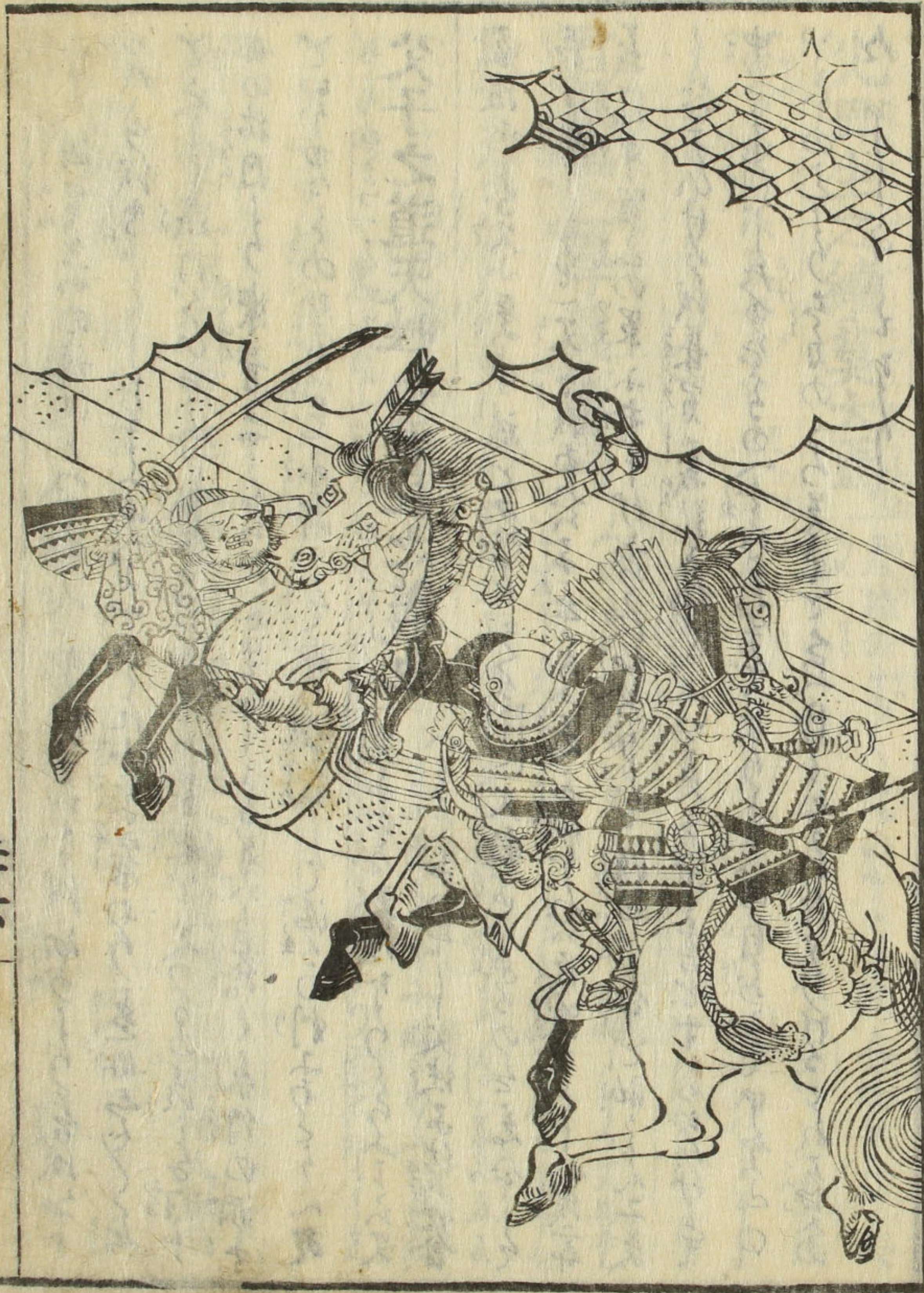
老を胎とけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり
けりもあはれ事なりけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり

聖人因嚴以教敬因親以教愛

嚴敬教愛とては性の同一なり

あはれりし事なりけりも親の事なりけりも親の事なりけりも親の事なり

聖人之教不肅而成其政不嚴而治其所因者本也



義と行ふ事なりて道なきをわかれば人は義を
 んで法するなり人の志しては人に人にしては
 とするれとて利するも義とて利する時ハ自
 仁のありくも人のけりなり

容止可觀進退可度

容ハ一方の徳容なり止るべきと儀の
 あり九一方の容なり
 止るべきと儀のあり九一方の容なり
 止るべきと儀のあり九一方の容なり

以臨其民是以其民畏而愛之則而象之

日月のあらんを居ては象
 まいてるを象のあらんを居ては象
 まいてるを象のあらんを居ては象

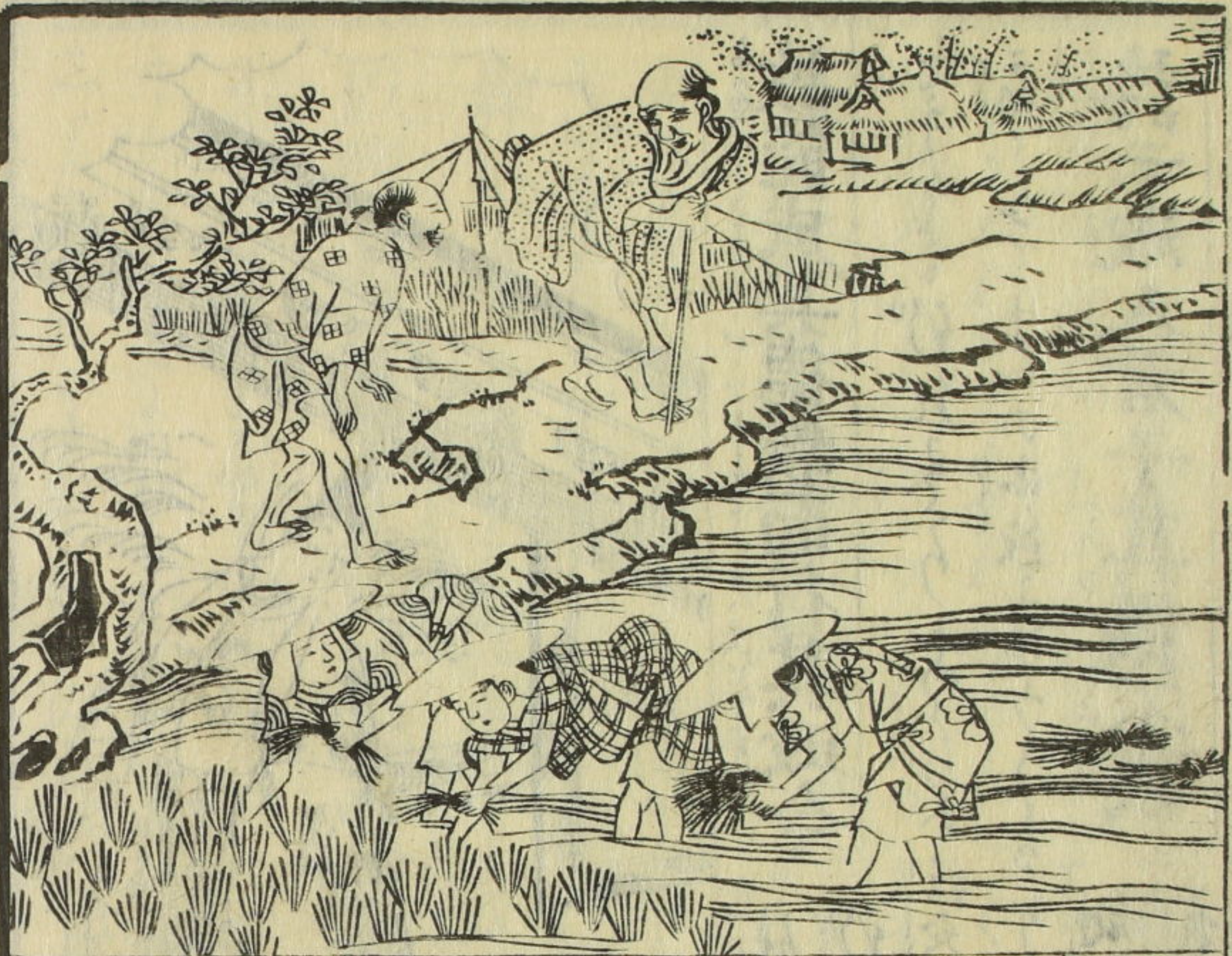


故能成其德教而行其政令

故能成其德教而行其政令
 故能成其德教而行其政令
 故能成其德教而行其政令

詩云淑人君子其儀不忒

淑人君子其儀不忒
 淑人君子其儀不忒
 淑人君子其儀不忒



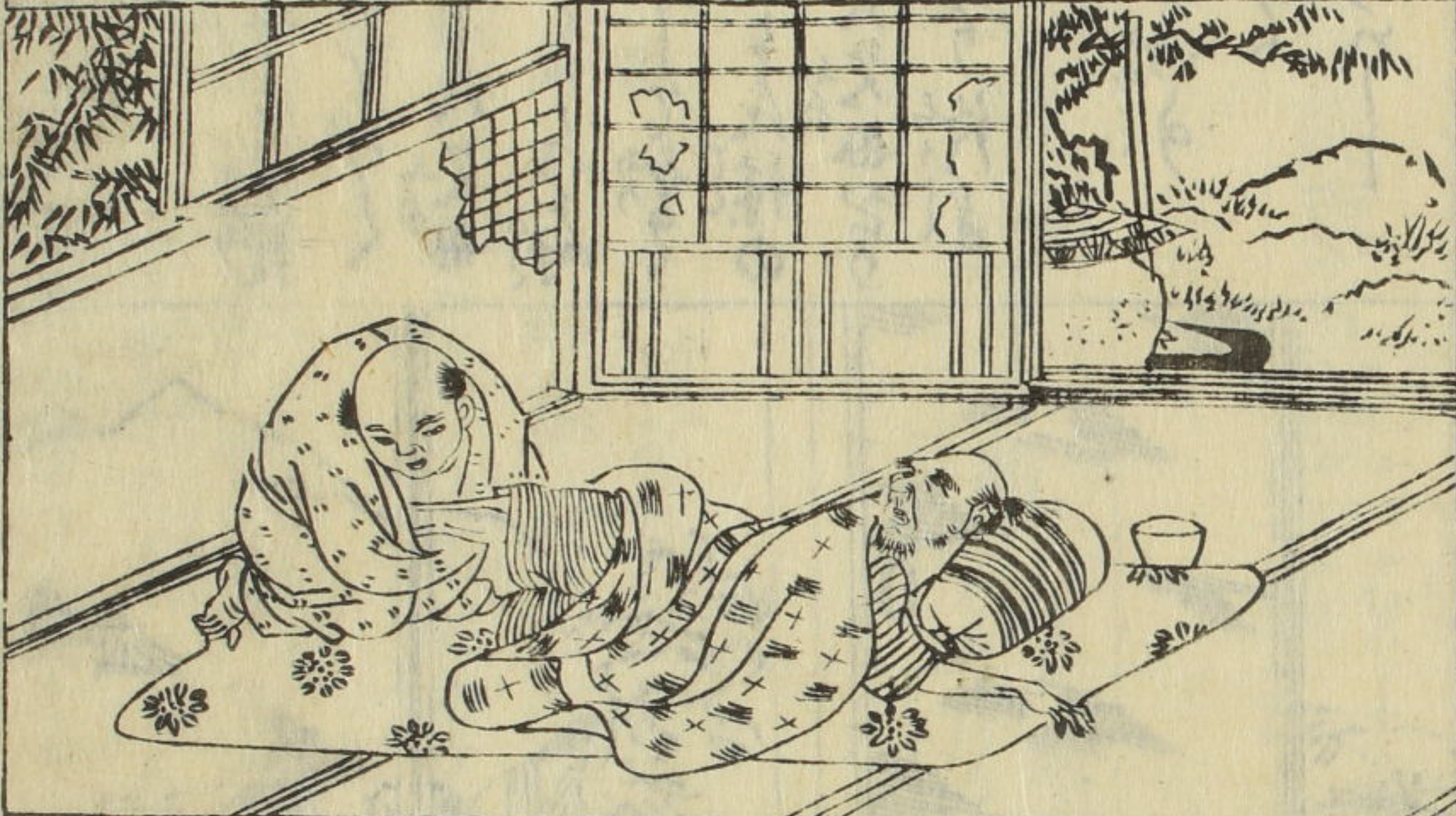
たゞよき子にせむ自人の法則
 孝子之事親也
 孝のことのこまりんがめふ世道
 は後したまふつかり

居則致其敬養則致其

樂
 家より居るとはそこの父母と
 うまひやあやまふからん所

又母のこらよけりんまことんを
 まことの孝なりといわゆるは
 龍の雨に中原休日といふ人
 あり家よりあてまつりければ
 又伝説するに化かすといふとき

えいづらふと
 て我農業と
 折すところの
 中とそらよあ
 さいゆれけり
 とのまんせりり
 とゆわげてかぞ
 へとそらりり
 やつとそらりり
 病則致其憂
 喪則致其哀
 父母の病煩むる
 とそらりり



て醫治はあれ我の病
 わらりもろぬとて又母
 天の幸致はまきけのい
 とそらりり
 りんれの体有とそら母の
 心よあめとそら人あり家
 心やあれとそら母とそら
 りり又高時夜のおがけん
 ともこのまがはとてわらめ
 あもすがあつとそらか
 抱はれとそら天の命
 是とそらとそらとそら
 りねおる存とそらとそら
 とそらとそらとそらとそら

祭則致其嚴

死生の至夜の道中して其の
礼のつひやれぬにげく
ともかぎりあるべし又母
が儀をて終終とせむ付
はそめ 祭と居て一とて
整ふればなりとん休の
家ましくする人の又母を
てそのまははゆるは
疑んほく

けりてけりけり
孝子傳とらふ
ちよとらふ



五者備矣然後能事其親

親よまうとくとあつたけり

なつたけりけり老ゆりてこと能
親よまうとくとあつたけり

事親者居上不驕為下不亂

礼しつゝのちれとらりて
あめーおまひけりて

親よまうの人のた居る
ごりたるのちれとらりて

在醜不爭

あつたけりてあつたけり
あつたけりてあつたけり

醜しつゝのちれとらりて
あつたけりてあつたけり

居上而驕則凶

あつたけりてあつたけり
あつたけりてあつたけり

居上りてあつたけり
あつたけりてあつたけり

夫よわあざんざんあふあふん
くくあざん

非至徳其孰能順民如

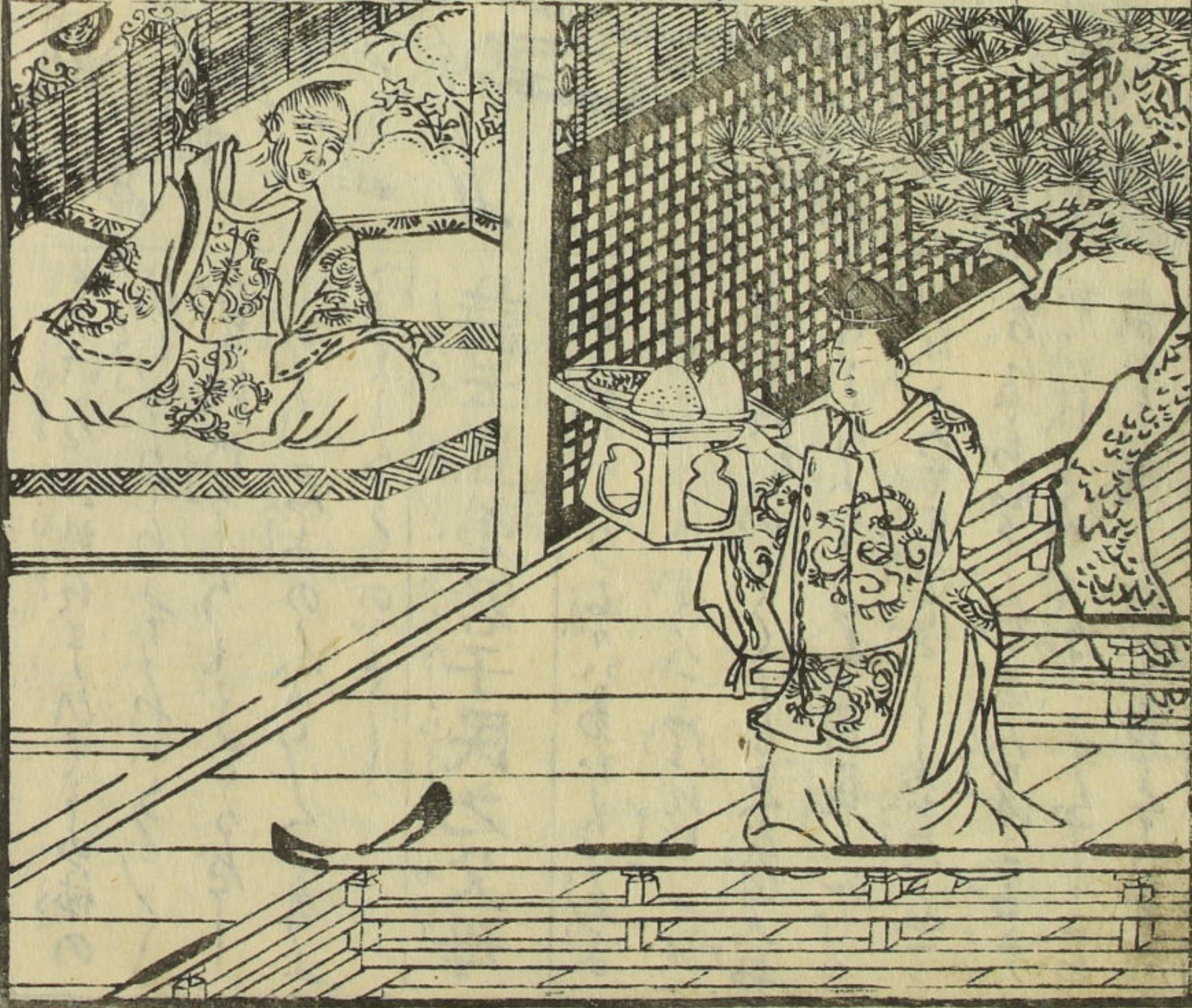
此其大者乎

天を遊
すうべいふ下の衆生とわ
すうくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく

昔者明王事父孝故事

天明事母孝故事地察

天を遊
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくく



長幼順故上下治

人一人の如くはるものもあつて長幼
どうのものもあつて家も居て知れば父兄伯叔
よほひ長すう時とをまふ事と愛慕するなり
あそつてふくはる家も有一時の如たどらん
家も居て長くするのたなりけり
玉の如くはる

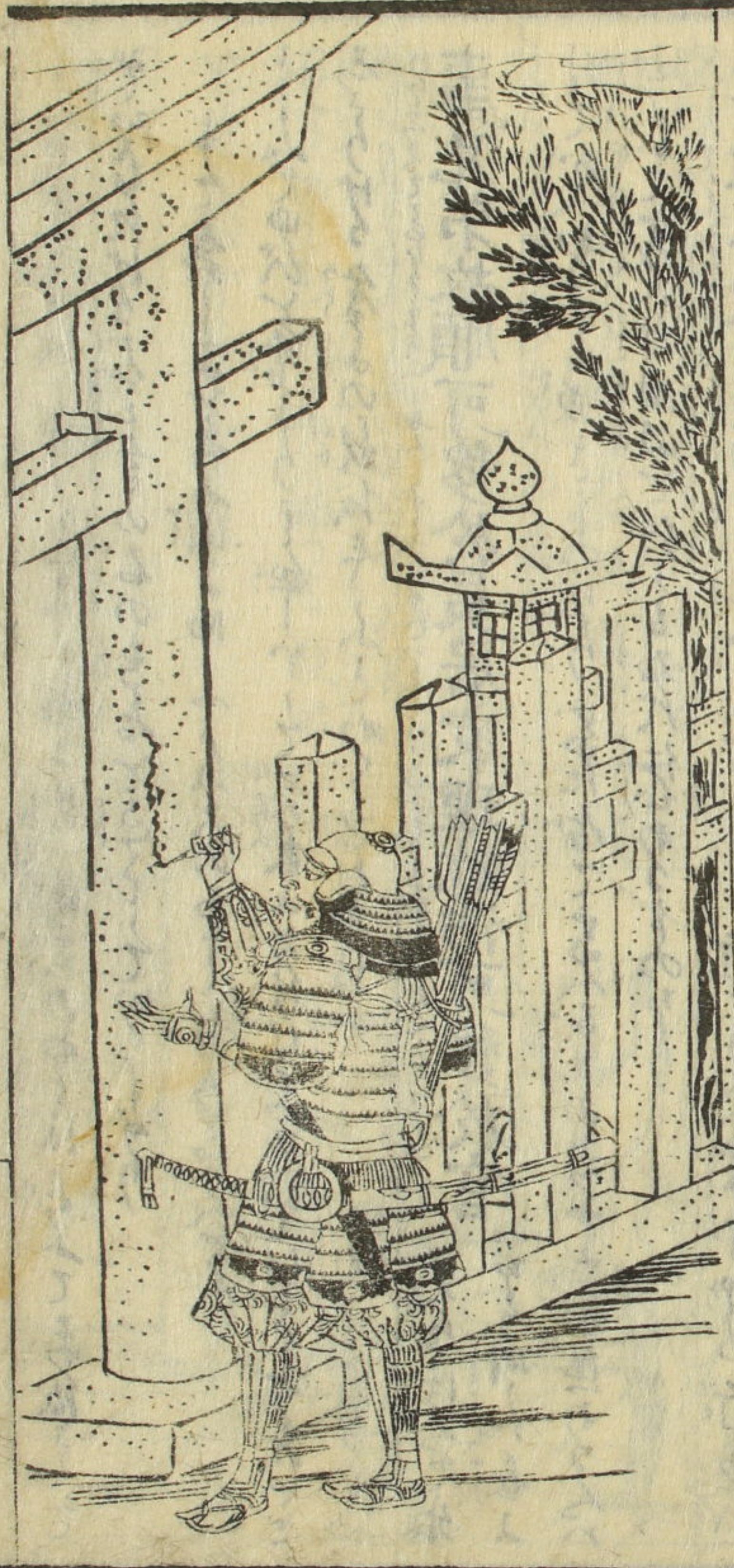
天地明察神明彰矣

人一人の如くはるものもあつて長幼
どうのものもあつて家も居て知れば父兄伯叔
よほひ長すう時とをまふ事と愛慕するなり
あそつてふくはる家も有一時の如たどらん
家も居て長くするのたなりけり
玉の如くはる



君子之車親孝故忠可移於君

のく君よはて忠なりとて國をばとかり
 愛よむるは年資貞ハ心ま
 のろおのの味の子とて向ひける
 忠の心は人々を導く
 忠の心は人々を導く



揚名參聞命矣

揚名參聞命矣
揚名參聞命矣
揚名參聞命矣

敢問從父之令可謂孝乎

敢問從父之令可謂孝乎
敢問從父之令可謂孝乎
敢問從父之令可謂孝乎

子曰是何言與是何言與言不通也

子曰是何言與是何言與言不通也
子曰是何言與是何言與言不通也
子曰是何言與是何言與言不通也

昔者天子有爭臣七人雖無道不失其天下諸侯有爭臣五

人雖無道不失其國大夫有爭臣三人雖無道不失其家

人雖無道不失其國大夫有爭臣三人雖無道不失其家
人雖無道不失其國大夫有爭臣三人雖無道不失其家
人雖無道不失其國大夫有爭臣三人雖無道不失其家

士有爭友則身不離於令名

士有爭友則身不離於令名
士有爭友則身不離於令名
士有爭友則身不離於令名

父有爭子則身不陷於不義

父有爭子則身不陷於不義
父有爭子則身不陷於不義
父有爭子則身不陷於不義

いけるとうふみふたれん
 と之れくふすしりて連りふ
 庭まふ木の枝を折けてあう
 うる極力勢いけりは是は成る
 とて之れゆんぬりて海りい
 るもにたうすてけれぬるあり
 眞ふまある枝折れぬとあて
 我れはかきけてまうそのあ
 けくれん民衆をけりて極力けり
 始りてはあてまうすてけりま
 る我れも入りて時教のすくふあ
 の

**故當不義則子不可以
 不爭於父臣不可以不爭**



於君 忠親不義ふあつたあてまうすの忠孝の二つなり前漢の蕭
 何なる也と述べて天下とまうすやふりて治ぬ海に感物まうす
 治ぬあてまうすて成るやとてまうす何なり秦の書物花よ入て必の法令山川
 分界の繪圖もまうすて後天下と治ぬの由もまうすなりまうす比たの志もまうすの
 蕭何とまうすてまうすなりまうすなり

故當不義則爭之從父之令焉得為孝乎

の事なりりむすすふまうす父の命よ治ぬのまうすなりていうが忠良孝
 子とのまうすやまうすか人ごあぢまうすていひまうすなり

君子之事上也

君子の事上は孝子と人ごなりり治ぬの武帝の時
 漢武帝と持て匈奴と攻ねる事なると飲食
 せむらひの教目なりり天子の命よ治ぬの武帝の時
 夫れは漢の武帝と持て匈奴と攻ねる事なると飲食

詩云心乎愛矣遐不謂矣中心藏之何日忘之

心乎愛矣 遐不謂矣 中心藏之 何日忘之
心は愛するに及ばず 遠くを言ふに及ばず 中心に藏して 何日忘るべし

孝子之喪親也哭不依

孝子之喪親也 哭不依
孝子の喪に親を失ふは 哭して依りて居るべし

禮不容言不文

禮不容言 不文
禮には容れざる言 文には容れざる

服美不安聞樂不樂食旨不甘

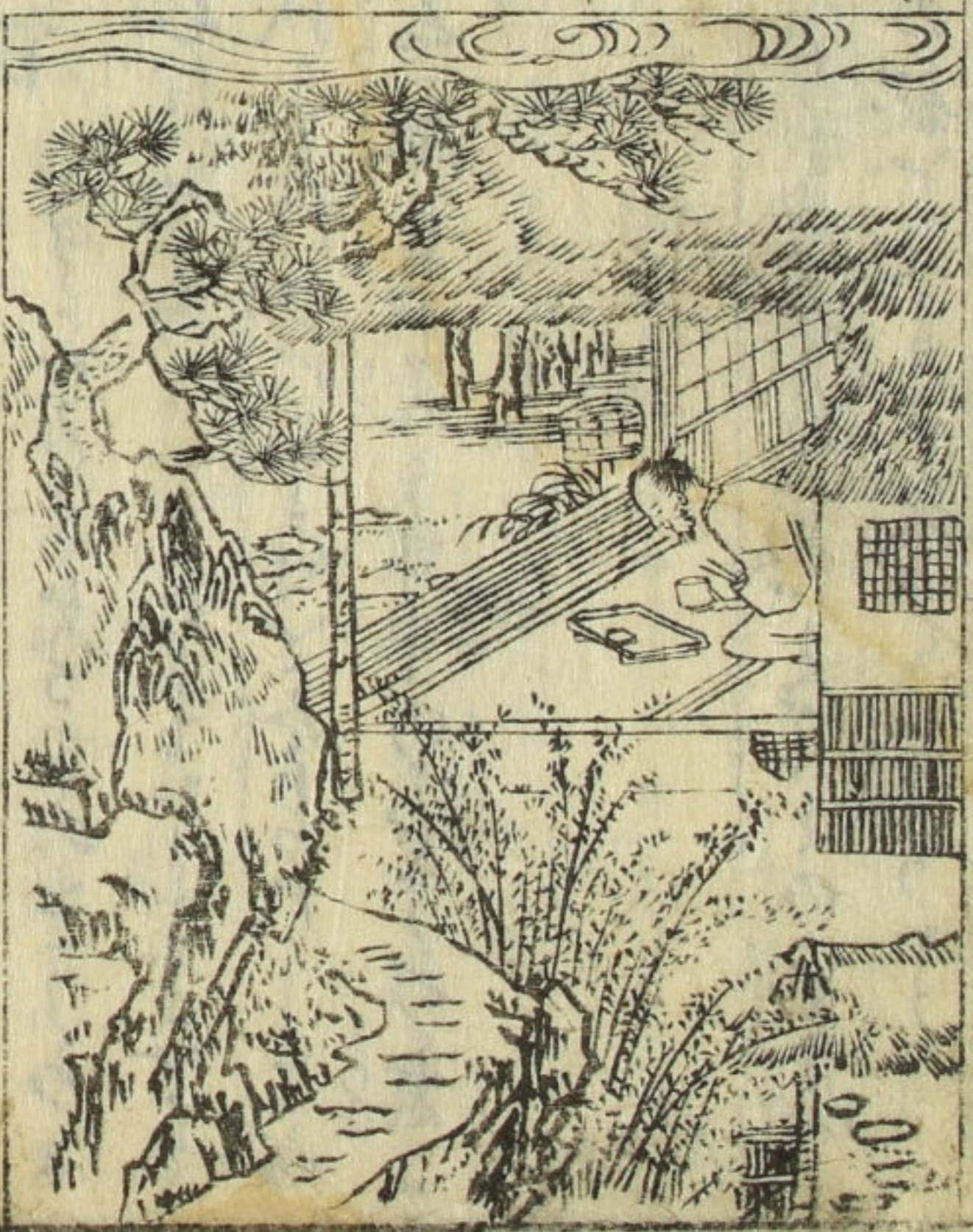
服美不安 聞樂不樂 食旨不甘
美を服するに安んず 樂を聞かざる 旨を食するに甘んず

此哀戚之情也

此哀戚之情也
此は哀しき情也

三日而食教民無以死傷生
毀不滅性此聖人之政也

或云又母亦平... 惟と... 寔... 故人... 一... あり... 三日の... 親... 二... 人民の



喪不過三年示民有終也

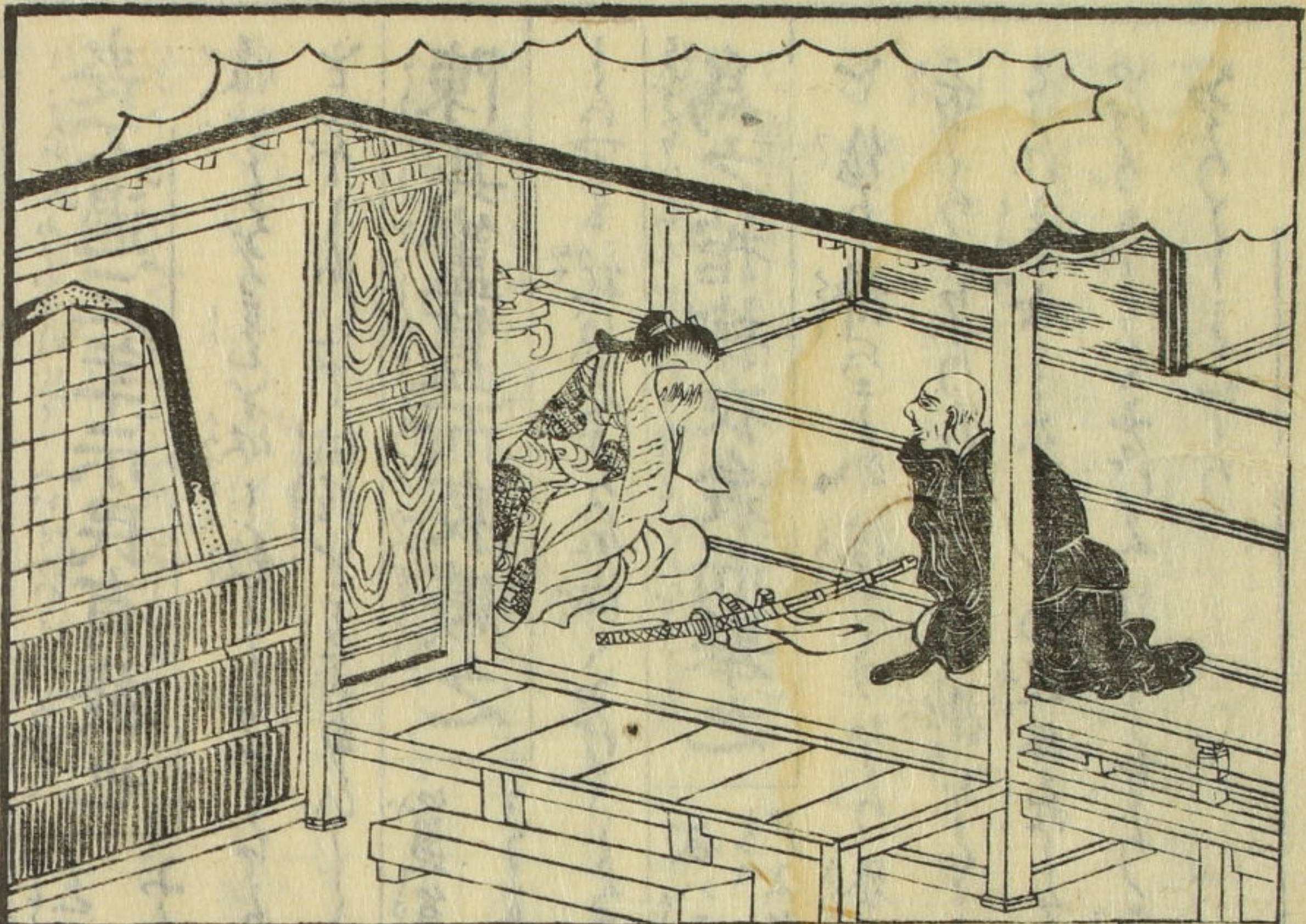
喪... 三年... 示民有終也... 喪... 三年... 示民有終也... 喪... 三年... 示民有終也...

陳其簞簋而哀戚之

陳其簞簋而哀戚之... 簞簋... 哀戚... 陳其簞簋而哀戚之... 簞簋... 哀戚... 陳其簞簋而哀戚之...

為之棺槨衣衾而舉之

為之棺槨衣衾而舉之... 棺槨... 衣衾... 舉之... 為之棺槨衣衾而舉之... 棺槨... 衣衾... 舉之... 為之棺槨衣衾而舉之...



擗踊哭泣哀以送之

擗踊と云ふ踊るは足と云ふ地と踊るは
 哭と云ふ聲あり泣くは目と涙あり
 形と云ふ姿なり平の貞節の平家滅
 亡のち死刑よごされぬけられた人
 の傍にまわき平家の刀を交へて死
 してあつた妻のえん始にまわき傍
 わその教とておて後念ふなり貞節
 の妻よあまふてうたげのうたを流り
 涙ながふおまのふんをわたりたれば
 女房そのみと形なりけりて絶
 入るり泣くありて

卜其宅兆而安措之

流るるよこかここと人のさやけんたてあるべし命なりぬよ
 うく係トけく拘りたるはどりてあげてその刀渡ぬとていふぬき
 ぞやうけける謝りておまを世よまらんとてまきへけり
 宅と云ふは墓穴なり兆と云ふは墓の外の
 かこいとうふトとておへてまを死とて
 むはらうやうり婁帳のさぬげぬのりく成郭溝池乃路とて
 うららるの地とておて葬とすなりとて

為之宗廟以鬼享之春秋祭祀以時思之

建鬼はいておちりとておちりとておちりとておちりとて
 うららるるよこかここと人のさやけんたてあるべし命なりぬよ
 うく係トけく拘りたるはどりてあげてその刀渡ぬとていふぬき
 ぞやうけける謝りておまを世よまらんとてまきへけり
 宅と云ふは墓穴なり兆と云ふは墓の外の
 かこいとうふトとておへてまを死とて
 むはらうやうり婁帳のさぬげぬのりく成郭溝池乃路とて
 うららるの地とておて葬とすなりとて

生事愛敬死事哀
 戚生民之本盡矣
 死生之義備矣
 生ん事て愛せり死ん事て哀せり
 のを死ん事て哀せり死ん事て哀せり
 なるなり孝ふへ教ふに
 せりてせりて喪居てに
 なるなり孝ふへ教ふに
 せりてせりて喪居てに
 なるなり孝ふへ教ふに
 せりてせりて喪居てに



孝子之事親終矣

孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣
 孝子の事親終矣



東都蕙齋先生画

文化十歳酉春發兌

浪花

松村九兵衛

書肆

東武

前川六左衛門

尾張

小林新兵衛

片野東四郎

清子孫傳達_下進物_上 秘為格別_下 匣及書物

繪_え本_{ほん}孝_{こう}經_{きやう} 全一冊 秘_ひ乃_の楷_か披_{てい} 全一冊

同_{どう} 今_{いま}川_{かわ} 全二冊 渡_と世_せ肝_{かん}要_{よう}記_き 全二冊

同_{どう} 教_け近_{ちん}乃_の 全一冊 略_{りやく}解_{かい}子_し字_じ文_{ぶん} 全一冊

同_{どう} 新_{しん}山_{さん}料_{りやう} 全二冊 医_い家_か子_し字_じ文_{ぶん} 全一冊

同_{どう} 兩_{りやう}筆_{ひつ} 全一冊 子_し述_{じゆつ}子_し字_じ文_{ぶん} 全一冊

尾張名古屋中町七丁目 永樂屋東四郎

寫忠